

## ゆらぎ

あいまいでいたい

茶夜

戒名はいちばんつよいドラゴンがいい唱えるときに君は笑って

結論から申し上げられなくて一緒に森で迷ってほしい

あいまいでいたいなりたいたいぼくのこといつかだれかが好きになる

七日でも八日でもなく九日と呟くときに口に咲く花

こんばんはスターゲイザーあの星に瞼があれば君の夢をみる

曖昧さを飼う

山本タカノリ

ランドスケープを撮るのが好きで、カメラを持って高架線沿いを歩いていた。ある天気、ある距離、ある角度。カメラを調整し、ある瞬間を狙ってシャッターボタンを押す。なんとなく晴れやかな気分だった。カメラのディスプレイを見ると、良い感

じの写真が撮れている。帰宅して、大きめのディスプレイで確認する。やっぱり悪くないと思う。だが、この写真は、自分が次に目にするその瞬間も、良い写真のまままでいてくれるだろうか。

ジャンケンの「無敵」という手（戦略）を知っているだろうか。親指、人差し指、中指の三本を立て、残りの二本は握り込む。この手が「無敵」とされるのは、グー・チョキ・パーのどの手にも見え、どの手にも勝てそうだからだ。もちろん、たいてい許されない手である。どうしても勝ちたいとき（たとえば、小学校の給食で余りの唐揚げが欲しいとき）、不意に「無敵」を出して場を乱すことができるかもしれない。すかさず次の手でパーを出せば、普段より勝率が上がるかもしれない（人は突然のジャンケンでグーを出しやすいという話もある）。こう書くと、かなり小賢しい。

写真の良し悪しに不安になるくらいなら、写真に収めたくないこともある。写真よりも、記憶の中で定着したその瞬間が、現在の自分の状態にそっと合わせて変わってくれるかもしれない。曖昧なままできていることが、今の自分に寄り添う。

一意ではなく、複数の機能を持つ可能性を持った戦略や方法は、曖昧であるかもしれない。しかし、その曖昧さが、状況や目的に応じて柔軟に機能する。これは、一意性に依存しないからこそ、より多くの可能性を秘めているとも言える。



## あいまいみー

守屋 信

あれもこれもどれもどれでも

いつかどこかできっと

まもれないまた明日また今度

いって行って行って

## 二〇二四年秋

Yan Tian

学振：九月二十八日。昨夜は眠れなかった。尊敬する後輩が成功を勝ち取った喜びで高揚し、自分が落伍者となったことに意気消沈し、恋人との関係で迷い、いくつかの強い感情が同時に生じたせいで、何が何だかわけが分からなくなった。

落ち込む気持ちは自動的なもので、あまりコントロールできないと思っていたが、「落ち込むのをやめた。さあ、動き出そうぜ」と思ったら、案外動けるものなのだなと思った。劇薬的な頓服的な一時的な作用かもしれないが、それでもただ落胆して壁をぼーっと見つめているよりはマシだと思った。過去に受けた仕打ちを思い出し、状況や他者のせいにしたくなっても、そんなのは醜いし、なにより先に進む力にはならない。

勝つとか負けるとか、生き残るとか生き残らないとか、怖い冷たい社会だなと思う。でも、そんなことに文句を言ったって何も始まらないのだから、とりあえずやるべきことをやるしかない。

来年は死ぬ。死ぬつもりでやっている。死んだっていいと思っている。それは言い過ぎかもしれない。でも命を前借りする覚悟でやっている、それは間違いない。それほどに追い詰められている。努力するしかない。

私の研究能力は決して高くない。普通か普通未満だ。それに加えて、人よりも大幅にスタートが遅れている。そんな状況で、巻き返すために何ができるか。血反吐を吐き、血尿を垂れ流し、心臓が悲鳴をあげながらもやるしかない。努力で負けたら、もう何も勝てない。

ただの所信表明。死ぬ気でやる。死んだっていい。ただそれを宣言しただけ。誰に対してかは知らない。ただ、今の感情を記録しておくことで、成長して優雅にゆったりと研究している私が振り返ったとき、そんな時期もあつたなあと思ひ出せるようになればよいと思う。

(追記) 学振不採用直後の、どうしようもない鬱屈とした感情のままにぼぼ一筆書きで書いた文章である。なので、熱くなりすぎているし、恥ずかしくもある。しかし、それ以前の学問と研究に対する中途半端な姿勢との決別を意味する決意表明だと思う。率直な感情を出したので、どうしても恥ずかしさは残るが、本気で思ったことだ。これらの考えが曖昧な宣言にならないよう、ここに記録しておきたい。